

小児科	
診療科目：小児科	
診療科担当研修責任者名： 齋藤 昭彦（小児科診療科長）	
診療科連絡先担当者名： 沼野 藤人（小児科総括医長） 阿部 忠朗（小児科エデュケーショナルマネージャー） 澤野 堅太郎（小児科メンター）	
受入期間：4週間以上	同時受け入れ可能数：3人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
小児科学会専門医31人、腎臓学会専門医2人、リウマチ専門医1人、血液学会専門医3人、小児血液がん専門医3人、造血細胞移植認定医1人、がん治療認定医0人、小児循環器専門医3人、循環器専門医1人、内分泌学会内分泌代謝専門医1人、糖尿病学会専門医2人、臨床遺伝専門医1人、感染症専門医1人、小児神経専門医1人、てんかん専門医1人、周産期新生児専門医5人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
小児科学会指導医19人、腎臓指導医2人、リウマチ指導医1人、血液指導医2人、小児血液がん指導医2人、糖尿病指導医1人、感染症指導医1人、小児感染症暫定指導医1人、てんかん指導医1人、周産期新生児指導医3人、臨床研修指導医2人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
新潟大学病院小児科は、未来を担う子ども達の代弁者(Advocate)としての小児科医、高度な専門性を持つと同時に「全人的医療」ができる小児科医を育成することを目標としています。過去20年で150人以上の若い力が私共の教室に参加し、全国でも有数の小児科医数を育成してきました。小児科の主要領域（腎臓、リウマチ・膠原病、血液・腫瘍・免疫、循環器、感染症、内分泌・代謝、新生児、神経、集中治療）において、国際性、多様性、熱意を持つ各専門指導医を揃えていますので、研修医の皆さんには小児医療における難解な初期診断や治療方針の決定や入院管理の過程で、様々な経験を積んでいただくことが出来ます。救急医療では小児における総合診療の経験も得ることも可能です。また、当教科はSNSでの発信にも力をいれています。ホームページには研修医の先生用のページもご用意していますので、ご興味がある先生はぜひご覧ください。 ホームページは右のQRコードからご覧になれます→ 	小児病棟と周産母子センター新生児集中治療部において、8つの専門グループに分かれて小児の主要な領域の診療に当たっています。研修医の先生には各診療チームの一員として診療に当たってもらいます。毎朝、症例検討、救外対応の振り返りなどカンファレンスを行っています。研修医にも積極的に参加していただきます。毎週木曜日には症例検討会、教授回診があり、担当外の診療グループの症例の検討にも参加することができます。この病棟研修を通じて、問診、患児やご家族とのコミュニケーションのとり方、診察法、検査の出し方、そしてその結果の評価法を研修します。外来診療研修では、採血、点滴、注射といった処置や、新患の予診などを行います。当科の外来は処置が多いので、4週間の研修で小児の処置が一通りできるようになります。さらに、研修医の皆さんが小児急性疾患・救急疾患を経験できるように、一般救急研修の充実を図っています。新潟市医師会のご協力により新潟市急患センターで小児一次救急の研修を、そして当科が二次輪番救急当番日に指導医とともに当直をすることによって緊急入院における初期対応の経験を積むことができます。学術的な指導も充実しており、教室内によるリサーチミーティングにも参加していただけます。